

飼い主のいない犬猫への不妊・去勢手術費用に対する補助を求める署名

いわき市長 清水敏男様

犬や猫は愛護動物として法律で守られています。

しかし、飼い主に棄てられた猫は愛護動物でありながら放置され、野良猫として地域で生きざるを得ません。これらの野良猫たちが年三回出産をすると、一年間で12～15匹の猫が増えていくことになります。

私たち「LYSTA～動物たちに光と再生を。」「アニマルサポートの輪いわき」は、野良猫(飼い主のいない猫)への不妊・去勢手術を実施しています。不妊・去勢手術を実施することにより、猫に起因するトラブルを減らし、人と動物が共生できる街づくりを目指します。

現在いわき保健所に収容され殺処分されている愛護動物のほとんどは、飼い主のいない猫です。環境省の指針に習い、いわき市における殺処分ゼロに向けた重点施策は、飼い主のいない猫をどれだけ減らすかにかかっています。

いわき市の公園等に居着いている飼い主のいない猫においても、不妊・去勢手術が実施されていなかったことから、50匹を超える現場になってしまった案件もあります。この、多頭の現場に関しては、一斉に不妊・去勢手術を実施したことにより、これ以上の爆発的な増加を食い止めることができました。手術をしなければ750匹という数になってしまいます。これは、野良猫を捕獲(Trap)し、不妊手術(Neuter)を実施し、元の場所に戻す(Return)というものであって、猫の一代限りの命を全うさせる「TNR活動」であります。猫を減らすには、個体の自然減少を目指す取り組みが最も効果的です。

私たちの団体で調べた範囲では、全国の県や市町村で飼い主のいない猫の不妊・去勢手術に対する助成制度を創設し、殺処分減少に効果をあげています。

要望事項

1、いわき市においても、飼い主のいない猫に対する不妊・去勢手術費用に対する補助を、いわき市として創設してください。

LYSTA～動物たちに光と再生を。 代表 鈴木理絵
アニマルサポートの輪いわき 代表 宮内育子

名前(個人、団体)	住所

ご署名のためにいただいた個人情報は、署名以外の目的に使うことはございません。